

猪苗代湖における白鳥渡来に関する観察記録

猪苗代湖の白鳥を守る会

1976 ~ 1977

1. 初認 10月13日 AM 7:00 鳥帽子浜コハクチョウ 成鳥 4 幼鳥 4
2. 初認より飛去までの異動状況は別表のとおり。
3. その他、今季もアメリカコハクチョウは来なかった。またバンデング(首環・脚環)したもののみられなかった。
4. 湖畔著雪の状態。降雪量は例年より多く、警戒雪量を越す記録を示した。給餌は湖畔凍結がはじまった12月3日より開始した。

新田堀の流水量は例年の2倍程度に増え、給餌を容易にした。また給餌場の水深(湯水度)は例年より深く、氷、雪塊の撤去を有利にした。厳冬期に於ける雪の張り出しは非常に強く、約900mにもおよび、湖底に自生する藻・水草類の採食を完全に閉じ、且つ長期に亘った為に、給餌にたよる以外に途はなく、例年見られた2月に於ける渡来数の増加はなく、却って減少する状態が出現した。

結果として幼鳥連れのファミリーは逸早く逃避したものゝ如く姿を消し、残った幼鳥は瘦削により落鳥が続き例のない数に上った。この状態は猪苗代湖のみにあらず、北海道・新潟でも同様であるとの情報を得ている。このことをオオハクチョウについてみるに、渡来当初12羽(2つのファミリー)がきたが、1月後半には姿を消し、2月中に5・7・6羽と三度移動してきたが、間もなく飛び去り3月5日現在、亜成鳥3羽だけが残っており、4月12日第1陣に加わり飛去した。コハクチョウの幼鳥は保護をはじめた頃60%位、昨年で30%、今年(3月)では5%に過ぎない。また三城潟にいた一群は、2月に入って完全に姿を消していることも特記すべき事項である。(例年150~200羽)

5. 保護したもの、および落鳥について

1) 12/1	落鳥	上戸浜にて収容	(幼)	11) 1/23	落鳥	白鳥浜餌付場東側
2) "	"	"	(幼)	12) 2/11	保護	(金曲) 2/13 放鳥
3) "	"	三城潟にて収容	(幼)	13) 2/17	落鳥	白鳥浜餌付場
4) 1/4	"	上戸浜	" (幼)	14) 2/22	保護	(牛沼) 2/23 放鳥
5) 1/7	"	"	" (成)	15) "	落鳥	翁島
6) 1/15	"	三城潟	" (幼)	16) "	"	上戸
7) "	"	"	" (幼)	17) "	"	"
8) 1/17	"	白鳥浜にて犬に咬まれたもの	(成)	18) 3/3	"	白鳥浜新田堀にて凍死
9) 1/18	"	白鳥浜49線で交通事故	(幼)	19) 3/5	"	上戸浜にて収容
10) 1/19	"	都沢で高圧線に触れたもの	(幼)	20) 3/9	"	新田堀にて腐爛死体
				21) 3/15	"	車輻に衝突
累計	衰弱死	20		22) 3/17	"	白鳥浜にて腐爛死体
	事故死	4		23) 3/20	"	仁蔵浜にて死体収容
	保護をしたもの	2		24) "	"	新田堀上流腐爛死体
	(後日放鳥)			25) 3/29	"	高橋川々口にて収容
				26) "	"	前浜にて白骨収容

6. 給餌について

1) 白鳥浜

1月13日 砕氷、除雪開始、約1羽当り 400 g (屑米・糶・パン屑・茶がら・味柑の皮・落穂(樹)等を混与し、滞留間平均に給与することができた。餌料は全部善意の贈りものとして届けられたもので賄なうことができた。数量については(別途事務局集計のとおり)

2) 三城潟

三城潟餌料庫への搬入は頭初より少量にして、且つ労力的な問題もあり、こゝをテリトリーとする群は生活を維持することができず、他所に移動、転出してしまい、3月末頃より復帰し「渡り」頭初の数に戻った。

7. 反省事項

1) 例年になく落鳥数となったが、之は幼鳥が大部分を占め、末だ冠雪するに至らない時期より始まった。そして渡来して間もなく瘦削してくる状態がみられた。この状態は過去に於いて見られなかった現象で、饑餓に因るものとばかりは考えられない。

病学的に、或いは寄生虫学的な解明を要するものと思われる。

2) 餌付場の凍結防止対策

今年は前に述べた如く、新田堀の流水量が多く、また湖水の濁水(水位の低下)も少なかったので稍容易にはなっていたが、酷寒期、または風雪時の確保できるまでは及ばなかった。

之が対策については別途考究せねばならない。

3) 三城潟群の保護

秋の餌料搬入格納と毎日給餌をするための人力の確保を考えたい。

1977 ~ 1978

1. 初認 10月20日 AM6:00 三城潟 コハクチョウ 40羽 成鳥 28 幼鳥 12

1969年は20日、1970年は19日、1971年も19日と特に「渡り」が遅いことではないが、1972年以後は15日前後に渡来している。

これは、今秋は支那大陸より張り出してくる春型の帯状高気圧の連続で、暖かい日の連続で、19日になって弱いシベリア高気圧が連続する帯状の大陸性高気圧の間隙に割って入るように進み、20日に初認を らした。

この日測候所は、典型的ではないが季節風に似た状態が高気圧の進路にみられ、これによって「渡り」が行なわれた、と報じていた。(F.C.T)

2. 初認以降の渡来、移動、転出は別紙記録のとおり。

3. 標識鳥は 11月6日朝到着した群の中に薄汚れた黒と思われる頸環をつけたものを三城潟沖にいるのを見つけ、詳細について観察を続けているうち鳥帽子浜に転進した。No脚環の装着については不明である。その日およびその後再発見に努力したが、未だその姿をみない。

アメリカコハクチョウは今年は来なかった。

4. 保護したものおよび落鳥

(1) 落鳥1 小黒川にて1月26日氷上にて瘦削凍死せるものを収容

(2) 保護したもの1 小黒川で同日(1)と2m隔った場所で氷に凍結されたものを剥し救出、保護加療したが、同日夜半死に至る。(胃腸炎)

5. 渡来数について

近年に於ける渡来越冬数は400~500羽と均一された数であるが、1部若松市地域に移動するものが多くなってきている。こゝは風当りが弱い退避に好適な場所があり、また極めて近い所に保護してくれる人(斉藤新吉氏)がおり、3食給餌されるので棲みついている。時々猪苗代町地域である北岸に戻ってくる。

猪苗代湖白鳥渡来の記録

1976 ~ 1977

月 日	渡来数	飛去数	累 計	コングチョウ		オオングチョウ		その他
				成 鳥	幼 鳥	成 鳥	幼 鳥	
10 13	8		8	4	4			
26	12		20	8	12			
30	18		38					
11 2	115		153	91	50	4	8	
3	130		283	271		12		檜原湖に 12 (コ) 崎川浜に 28 (コ)
10			283	155	116	4	8	
16	82		365	215	134	6	10	
25	52		417	259	142	6	10	
12 12			417	259	142	6	10	
1 9		66	351	273	78			三城瀨より転出
17	44		395	326	69			
2 12		44	348	302	33	6	7	三城瀨より転出
28			373	341	27	5		
3 8			391					
13			301	284	17			
27			307	287	17	3		
4 2			321	300	18	3		
10			405	375	27	3		
12		179		226				
14	39		265	265				崎川浜より転入 PM 5:00
15		99	166					AM 5:30
19		141	25	25				PM 5:30
22		25	0					AM 5:30 = 15 PM 4:10 = 10

猪苗代湖白鳥渡来の記録

1977 ~ 1978

月/日	現在数	渡来数	飛去数	コハクチョウ		オハクチョウ		その他	摘 要
				成亜	幼	成亜	幼		
10.20	40	40		28	12				
26	96	56		62	34				
28	164	68		106	58				
29	(242) 236	72		147	89				檜原湖 成5 幼1 初認
11. 3	(320) 309	73		202	107				崎川浜 1コハク成 檜原湖 成6 幼4 新著
6	(364) 347	38		228	119				標識鳥 コハク成 黒?
8			(26)						崎川浜に移動 コハク 成22 幼4
9	(364) 321			206	115				
11	(410) 367	46		251	116				
13	(493) 450	83		310	140				崎川浜 コハク 成28 幼4 檜原湖 コハク 成11 幼5
12.11	(525) 481	31		320	159	2			崎川浜 コハク 成33 幼11 檜原湖 0
1. 8	(525) 481			320	159	2			崎川浜 コハク 成33 幼11 (1/26 1死 1/27 1死) =コハク幼
2.12	(509) 412		21 (46)	267	143	2			崎川浜に移動 46 崎川浜 コハク 49 成幼?
13	(509) 419			270	147	2			崎川浜 コハク 成64 幼26
3.12	(506) 363			246	115	2			崎川浜 コハク 成110 幼33

() 内の数字は崎川浜での合計